

# 市場から世界をみれば

ISG 情報システム株式会社 大谷淳一



外の海域で漁獲する行動に出ている。

中には、密漁もある。そのことがもつとも顕著に現れているのが中国やオイルマネーを持つている国々である。その国々は世界の健康志向とともにシーフードに目を向けている。かつては日本は世界第一位の水産輸入国であったが、いまや「誰かに買い負け」を繰り返してしまっている。

そのことがもつとも顕著に現れているのが中国やオイルマネーを持つている国々である。その国々は世界の健康志向とともにシーフードに目を向けている。かつては日本は世界第一位の水産輸入国であったが、いまや「誰かに買い負け」を繰り返してしまっている。

## 第8回「魚は誰のものか」

餌（えさ）は、全世界の魚の量を大幅に超えてしまっている。もしかしたら、以前確保しにきていることも、明白である。またその計算となる。飼料転換率が4%とすると7億5000万トンの飼料が必要となり、2005年の世界の総漁獲高の7.5倍の数字となる。海の魚はこれだけでいなくなることがある。騒ぎ過ぎてしまったか、それを押さえる「武器」となり、魚介資源は枯渇し、天然魚介資源は、今でも減り続けている。このよ

うな中、世界中で不思議な現象が起きている。各々の漁獲データが正確ではないらしい、というこ

うな中、世界中で不思議な現象が起きている。各々の漁獲データが正確ではないらしい、というこ

うな中、世界中で不思議な現象が起きている。各々の漁獲データが正確ではないらしい、というこ

うな中、世界中で不思議な現象が起きている。各々の漁獲データが正確ではないらしい、というこ

うな中、世界中で不思議な現象が起きている。各々の漁獲データが正確ではないらしい、というこ

うな中、世界中で不思議な現象が起きている。各々の漁獲データが正確ではないらしい、というこ

うな中、世界中で不思議な現象が起きている。各々の漁獲データが正確ではないらしい、というこ

うな中、世界中で不思議な現象が起きている。各々の漁獲データが正確ではないらしい、というこ

世界の魚介資源が枯渇してきている。枯渇してきているのは、FAO(国連食糧農業機関)の統計や日本の漁業の実態を見ても明らかである。世界は、これらの現状をとらえ養殖や遺伝子組み換え魚の開発に余念がない。そして自国の資源を減らさないために、「自国で漁獲し資源を減少」させるより他国で漁獲したものを買い取ったり自国以

そのために必要とされる

そのために必要とされる

そのために必要とされる

そのために必要とされる